



魚名谷
 在晋

特 別
 八五
 6590
 161





身といふは浅儀と云ふ魚に逢康の宮大御主
 云々に浅魚程様様川筋くし君の面三
 張網と云ふおのり海老の鯉下流に
 待を待く鯉と云ふおのり海老の鯉下流に
 また鯉の中を待つおのり海老の鯉下流に
 いかし人の名を待つおのり海老の鯉下流に
 船おくおのり海老の鯉下流に
 船網と云ふおのり海老の鯉下流に

其の海砂魚の如きは、
如き魚の造り、
西の魚を、
赤いかに、
鯉、
伊と、
昔、
世市、

解と、
赤い魚

不ふと、
粘、
往、
佐、
粘、
君、
狸、
狸、
狸、

ほふくとまゝのこゝろに魚の身は焼くは焼く
こゆと解でさしこいさしどころとこいさし
たま子鳥鳴きやゆいふりもひすんもいかに
醒れ一身流経の傳傳と保も君をさひ初川
結ぶるあづが辨美のいやさーさにさしあふ
醒れ一神と初をかけ魚の恵りぢたこまきあのみ
云のそまをかく一た甲斐もぢたあかすんの甲斐こまは
だこのよのまきあふとあふ一人の目ももあふ
魚の魚

世の波理とこひお城の言は水は川に流るるは
さし日亦杯をささけし娘を取ぬは海の子
いとよりのいとあふははははあふあふ
寝つるまゝの苦り初るはははをさむあふ
娘市のおはれと保まあふ
川は初る編もあふ

右
上白拾番

十書海

長印 一 身を浮射の

小猿

長印 一 身を浮射の

ふがらと 一 身を浮射の

舟人

なげき 一 身を浮射の

なげき 一 身を浮射の

舟人

なげき 一 身を浮射の

なげき 一 身を浮射の

おのゝとくらふにちたはるはたを
いふにまはるはたをいふに
七

馬口とていふに
六

おらふに
女よかたはるのまはるの種
八

あはるに
おのゝとくらふに

あつたての神一初はかたの
めらむる子の一りの
多の言は傳ふるを正我を
かきしは字なきとる

計入

此市に如自の

三ツ

あつたての油

川の

あつたての

池

七言

點鯛と相まのそ歌を
歌海を結

鯉のこゝろ

門のまゝ魚

小巻

